

「第 1 回小山市民フォーラム議事録」

1 テーマ

都市と田園が調和した持続可能なまち

～あなたが考える田園環境都市小山とは？～

2 次第

①開会

②開会のあいさつ

③出席者の紹介

④意見交換

テーマ①（田園環境都市のまちづくりとは）

テーマ②（渡良瀬遊水地などの自然やコウノトリなどの生物多様性
農地・平地林の保全と都市環境のバランスについて）

テーマ③（どのような分野を進めることが持続可能なまちづくりや SDGs につながる
のか）

⑤閉会のあいさつ

⑥閉会

3 参加者等

運営委員 第 2 期小山市シティプロモーション 5 カ年計画策定委員

小山プロモーションチーム「Sakutto OYAMA」（サクッと小山）

上記 2 団体等から、男性 3 名、女性 3 名、計 6 名選出。

①海老沼 和彦 氏 ②阿久津 治 氏 ③平野 明宏 氏

④関口 絵里加 氏 ⑤佐藤 佑子 氏 ⑥戒 奈央 氏

参加者 70 名

市関係者 浅野市長 雲井副市長

坪野谷総合政策部長 目徳産業観光部長 浅見都市整備部長

古川総合政策課長 松沼農政課長 今泉渡良瀬遊水地ラムサール推進課長

須郷都市計画課長

事務局 坂本秘書広報課長 他 7 名

①開会

○坂本秘書広報課長

皆さま、こんにちは。私は、この小山市民フォーラムの事務局を務めます秘書広報課長の坂本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日は、新型コロナウイルス感染症対策のため、当ホール収容人員 450 名のところ、70 名で開催させていただいております。参加者の皆さまにおかれましても、マスクを着用され、大きな声での発言を控えていただきますようお願い申し上げます。

それでは、お時間になりましたので、市民フォーラムを開催いたします。

②開会のあいさつ

○坂本秘書広報課長

開会に当たりまして、浅野市長よりご挨拶を申し上げます。

○浅野市長あいさつ

皆様おはようございます。本日はお忙しい中第 1 回小山市民フォーラムに参加いただき誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の方も 2 月に緊急事態宣言が明けてから県の方は特定警戒、感染嚴重注意、そして感染注意とだんだん警戒のレベルがさがってきたんですが、昨日からまた感染嚴重注意ということで一段引き上げられました。このところ新規感染者が増えてまいりました。小山でもクラスターが発生した、これから春が本格化するシーズンということで皆さん本当に外出したい気持ち、またお花見したいという気持ち、あると思うんですが、もう少し我慢していただきながら感染症対策を徹底していただきますようよろしくお願いいたします。

今日、第 1 回市民フォーラムということで私昨年の市長選挙の公約の一つがこの市民フォーラムの開催ということでございました。7 月 31 日に就任いたしましてその記者会見でいつ公約実現されるんですかと聞かれまして、ほとんど準備もなく市長になってしまったものですからちょっと助走期間をいただきたい、半年くらいいただきたいということでお話をいたしました。まもなく就任から 8 カ月になるところでございますが、こうやって第 1 回市民フォーラムを開催出来たことを本当に感慨深く思っております。

なぜ私が市民フォーラムを開催しようかと思ったかと言いますと、実は私渡良瀬遊水地の関係でずっと市民活動をしてきましたが、ここに 2019 年 6 月にまとめたラムサール条約湿地登録 7 周年ということでの提言書がございます。私がラムサール湿地ネットわたらせというものの事務局長をやっているのですが、ここでわたらせ市民フォーラムということで、多くの人、関係者呼び掛けてフォーラムを全 8 回行いました。

2017 年から計画をして 2018 年の 1 月から 5 月まで、計 8 回行いました。4 市 2 町全てで開きました。その時は市民がきちんと議論していこうと、渡良瀬遊水地の場合 4 市 2 町という自治体の壁がございまして、これを打ち破っていくためには、壁のない市民が話し合っただけからどういうふうにすべきなのか、行政に提言しなきゃいけないということで開きました。

最初は午後 1 時から 4 時くらいの 3 時間でやったんですが参加した皆さん私もしゃべりたい

ということで時間が足りず 2 回目からは時間を延長してやってきました。徐々に議論が収斂してきて、最終的にこのような提言書をまとめることが出来た。

小山市はまちづくりが大きな課題になっているわけですが、市民が議論して認識を共有できずに本当にいいまちづくりが出来るはずがないんです。ですから私、この田園環境都市小山のまちづくりというものを提唱するなかで、きちんと市民が議論することが必要だろうということで公約の 2 つめである田園環境都市おやまのまちづくりと共に市民フォーラムを開催したということでもあります。

今日は第 1 回ということでコロナ禍でもあるので、人数も制限しましたし、時間も 1 時間半ということですが、多分今日参加された皆さんもっとしゃべりたかったと思われると思います。2 回目からはコロナの状態を見つつ、参加者を増やすとか、時間を長くしたりということが出来ればと思っておりますので、今日は第 1 歩でございますけれども、行政と市民がきちんと対話を続けながらやっていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

③出席者の紹介

○坂本秘書広報課長

ありがとうございました。まず、はじめに本日の出席者をご紹介します。約 70 名の参加者の皆さまにおかれましては、参加申し込みありがとうございます。どうぞ宜しくお願いします。

次に本フォーラム開催にあたり、運営委員として企画運営にご尽力いただいております 6 名の方より自己紹介をお願いします。

○阿久津委員

改めましてみなさんこんにちは。小山市シティプロモーション 5 カ年計画策定委員会より、また、小山商工会議所青年部という会に所属しております、その他小山西口活性化委員会青年部の会長も務めています。今回は非常に楽しみにしていました。どうぞ宜しくお願いいたします。

○関口委員

こんにちは。私は小山プロモーションチーム、サクッと小山所属の関口絵里加と申します。私は白鷗大学法学部 3 年、新 4 年でもありまして、大学生の目線でどう小山市の様々な魅力を発信していけるのか、精進してまいりますので、本日は短い時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○海老沼委員

皆さまおはようございます。私シティプロモーション策定委員の一人ということでこちらの委員をさせていただきます。地元は生井地区の上生井というところで農業を営んでおります。限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

○佐藤委員

皆様こんにちは。私はサクッとおやまに所属しております佐藤裕子と申します。今自己紹介

された海老沼さんが最南端の小山地区だとすると、私は最北端の地区にいまして、小宅といつて、知っている人があまりいないと思うんですけれども豊田地区が一番近いかなと思います。よろしくお願いします。

○平野委員

元気フォーラム桑から来ました平野と申します。元気フォーラム桑は桑地区を中心とした高齢者支援、子育て支援、地域活性化を目的とした NPO 団体で私は保育園、学童の副会長だったり学校の PTA 会長で子育て支援を主に動いています。子育て世代の代表として皆様と話がしたくて参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

○戎委員

皆さんこんにちは。小山プロモーションチームサクッと小山の戎奈央と申します。私は 10 年前に小山市に移住してきました。子ども 4 人います。一市民として行政と調和してやっていけたらいいなと思います。どうぞよろしくお願いします。

○阿久津委員

委員の皆様ありがとうございました。すいません、私事で、名前申し上げるのを忘れました。阿久津治と申します。よろしくお願いします。

○坂本秘書広報課長

ありがとうございました。それでは小山市側の出席者を紹介します。浅野市長でございます。雲井副市長でございます。坪野谷総合政策部長でございます。目徳産業観光部長でございます。浅見都市整備部長でございます。そして各部の課長が出席しております。

○坂本秘書広報課長

それでは、本日の予定をご案内いたします。

皆様に提出いただいた参加申込書の中で、市長と話したい内容について、ご要望いただいたご意見を参考に、3つのテーマを設定させていただきました。3つのテーマにつきましては皆様の座席に配布させていただいたレジュメをご確認ください。

運営委員の皆様の進行によりテーマ1つごとに、参加者の皆様と市長及び運営委員の皆様とで25分前後意見交換を行っていただきます。意見交換を行う際、発言を希望される方は、挙手をしていただきましたら、係の者がマイクをお持ちしますので、お名前をフルネームでおっしゃってからご発言ください。なるべく多くの方にご意見をいただきたいと考えておりますので、発言は2分以内でコンパクトにお願いいたします。なお、今回はタイムキーパーを用意しましたので、2分経過しますとベルが鳴ります。ベルが鳴った場合にはそこで発言をストップしていただきますようお願い申し上げます。

また、市役所の担当課がお分かりになっており、直接対応していただきたい内容、または具体的なお問合せなどについては、直接担当課へご連絡ください。

なお、本日テレビ小山放送のカメラが入っており、フォーラムの様子を近日中にコミュニティチャンネルにて放送される予定ですのでご了承ください。その他報道機関の取材、また、事務局にて記録用としてフォーラムの様子を写真撮影させていただきますので、ご了承くださいたいと思います。

それでは、ここからは今回のフォーラム開催にあたり、お力添えをいただいております運営委員の皆様をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

④意見交換：テーマ１「田園環境都市のまちづくりとは」

○阿久津委員

それでは改めましてよろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。これから進行は私と関口の方でやらさせていただきます。本当に限られた時間内ではございますが、多くの意見交換により有意義なフォーラムとしていきたいと思いますので、どうかご協力のほどお願いします。

まず１つめのテーマは「田園環境都市のまちづくりとは」というところになりますのでそちらのほうまずは浅野市長より説明をお願いします。

○浅野市長

それでは私から説明させていただきます。お手元の資料の中に、スライドが８枚、A4の紙が２枚あると思いますのでそれを見ていただきたいと思います。田園環境都市小山のまちづくりについては、中々中身が分からないということで、議会でも質問を受けているところでございます。これをきちんと説明すると１時間くらいかかってしまいますので、いただいた時間が５分ということでございますので本当に大枠的な所を説明させていただきます。

まず１枚目のスライドで田園環境都市ということでここに書いてあります小山市はという部分では、これは私が選挙に立った時のチラシにも記載させていただきましたものと同じです。農業商・工業のバランスが良く、交通の要衝にあり市街地の周辺に農地や平地林などの田園環境が広がって思川が注ぎコウノトリが定着・繁殖したラムサール条約湿地「渡良瀬遊水地」につながる素晴らしい環境を有するコウノトリによって選ばれた首都圏でも有数の田園環境都市、これも私が抱いている小山市のイメージを市民の皆さまと共有したいということでまとめた文章です。小山市の良さを守っていく、向上させていく、こういうまちづくりをしたいということでお示したものです。

小山市はちょうど総合計画を策定したところなんですが、皆さんよく持続可能なまちづくりとか、SDGSとか聞かれると思います。私環境保全に色々関わってきました。その中で持続可能な社会を目指すというのが環境問題の基本的な課題になったわけです。

そういうところで持続可能なまちづくりとか、SDGSとかに興味を持っていましたので、２枚目のスライドのところですが、持続可能な開発目標、2030年までにということでは突然出てきたものではなくて、1970年代ローマクラブが成長の限界ということで地球環境の危機を訴えたことがございまして、それ以来脈々と国連を中心に取り組んできたもの、その到達点がSDGSになっているということで、やはりではないんです。50年以上人類が取り組んできた課題の一つが持続可能な社会の構築ということで、その先端にSDGSを目標に掲げているということがあって、元々は環境から始まりましたが、環境守るためには経済

とか社会の問題、というものと一緒にやらないと環境守れないということでこの概念は発展してきたということがあります。

SDGS には 17 の目標があります。どれか関連する目標ということで、市の総合計画でもこれはこれに関連しますということをやっていますが、実は 17 のうちのどれか 1 つやればいいということではなく、すべてやることが重要なわけです。環境経済社会が統合した形での課題への取組ということになりますので、全部やらなきゃならない、これを達成したときに、あるいは持続可能なまちを目指したときどういうまちになるのかイメージがわからないんですね、実は私小山市の特質としてあげた田園環境都市おやまは SDGS のモデルの一つなんじゃないかということで、3 枚目のスライド、SDGs を達成したときに私たちの社会がどのようになるのかということの具体的なイメージはということでその一つが都市と田園環境が調和しコウノトリが定着・繁殖する渡良瀬遊水地を擁する電管協都市小山と言えるのではないかと、もちろん今の状況で 100 点満点ではないが、生態系の頂点のコウノトリがいるということは、コウノトリの下には多様な生物が生息しているから、コウノトリがここで繁殖できるんです。コウノトリに注目しがちですが、多様な生物が生息しているということで、素晴らしい環境があるわけです。渡良瀬から車で 15 分 20 分に小山があり、新幹線が止まり、高層ビルが立ち並ぶ街になっていることで、都市と田園が調和しているということは、本当に素晴らしい。これを一つのモデルとしてこの環境を守り、さらに向上させていくことが、SDGS の取組、持続可能なまちづくりの取組、ゴールというかモデルになるのではないかと。田園環境都市小山とか、持続可能なまちづくりとか、SDGS を重なっているものとして捉えていただきたい、SDGs の取組を新しいということということではなくて、今の環境を守るために SDGs や持続可能なまちづくりが必要だと考えています。

17 の目標についてははぶきますが、地球が有限であるということで、成長が停滞するのではないかと、そういうことが心配で、開発が出来ないのではないかと、経済が停滞するのではないかと心配される方が多いと思いますが、定常型社会という考え方がありまして、7 枚目のスライドの、経済成長の究極の源泉である需要が成熟ないし飽和状態に達しつつある社会は定常型社会に向かう、重要な要因としては人口減少と資源や自然環境の有限性であり、経済活動それ自体の持続性ということを考えても、経済の規模の定常性が要請されるようになった、私たちの社会人口減少とか需要が落ち込んでいることで、まさにこうなっていますが、下から 2 行目、経済成長ということを経済成長としないで十分な豊かさが実現されていく社会なんだと、市場経済的な需要は量的には飽和し、むしろそれを超えた、コミュニティや自然やケアや公共性等に関わる、人間のより高次のニーズや欲求が重要になり、働き方や生活の各方面にわたる「豊かさ」が再定義されていくということで、田園環境都市おやまが持続可能な都市ということになるのですが、中を見たときに、ひとりひとりがどんな生活をしていくのかということになった時には、豊かさが再定義されていくということで、それを実感できるような社会を定常型社会、田園環境都市小山だととらえたまちづくりをしていきたいを私は思っています。

そしてこの豊かさとはどういうことか、日々生活する私たちが生活の中で豊かだなと感じられなければ本当の豊かではない、真の豊かさは暮らしの中で大切なものを見つけ出す、それを守りながら生き生きと暮らし、確実に未来につなげていく営みと切り離すことが出来ないんだろうと、私たちが生活する中で大切なことは何なのか、しっかりつかまえない限り、豊かさは実感できないだろうということで、日々の生活の中で大切なものを見つけ出

し守っていくという、そういう必要がある、小山市のロゴで小さな自慢が山ほどありますというのが生まれました。

私たちにとって大切なものは環境伝統文化地域コミュニティ家族知人友人をはじめ日々の生活を支えてくれる様々なものの中になり、小さな自慢が山ほどありますというのはそれにつながるのではないかと、考えています。市民が主人公、市民が主役、生き生きと暮らせる田園環境都市小山と、そういうまちづくりをしていきたいと思っています。具体的に何をやっていくのかは一緒に対話を重ねながら具体的な施策を考え、実施し評価してよりよいものにしていくということを続けていくことが田園環境都市のまちづくりと考えています。時間が長くなりすいません。

○阿久津委員

市長ありがとうございました。関口委員いかがですか。

○関口委員

改めまして関口です。私は運営委員を受けさせていただき、今回の参加者に若い世代が少ないことに気づきました。持続可能な社会をつくるためには若い人たちが知り、関心を持つことが大切だと感じています。実際に20代前半の女性の転出が話題になっています。市民フォーラムの運営委員として小山市の強みをしっかりと発信し、市長と市民が協力してまちづくりが出来るよう努めていきたいと思っています。

○阿久津委員

はい、素晴らしいですね。大学生ということで。私も小山西口で生まれ、西口で商売しています。小山は田舎だが街並みも県で2番目の都市ということで、昔の三夜通りは人で溢れ、今とは違うと思うのですが、若い人たちも出てきましたが、歴史もあります。新しいことにチャレンジしていきたいと思っています。

青年部でたくさんのイベントをやってきましたんですが、まちをつくるというのは人を育てていくことが大切だと思います。行政も民間も手を取り合ってやっていけばいいのかなと思います。ここでさっそく皆様と意見交換をしたいと思っています。

○参加者

文化財の関係の委員をやっています。田園環境都市のエリアをどうするのか、小山の市域で考えてもしょうがない。広いエリアで考えるということが一つ。

渡良瀬思川国定公園構想というものを考えています。渡良瀬遊水地、思川沿いの文化財、様々あります。また、栃木の蔵の街、佐野、足利学校まで広げ広域で考える、それには国定公園を実現させることが必要と提起します。

○阿久津委員

ありがとうございます。歴史を踏まえて田園環境都市をやっていくのは重要だと思います。

○関口委員

古い文化、将来にわたって受け継ぐには若手が担っていく必要があるので、貴重な意見を反映したいと思います。

○市長

小山は当然周辺の町とつながっているので、小山のまちづくりを考えたときに、周辺とのつながりを意識することは重要。定住自立圏でやっていたり、栃木とも色々な形でやっています。これからも意識してやっていきます。

○阿久津委員

ありがとうございます。次の方。

○参加者

絹地区の出身ですが、紬の良さに気づけなかったです。最近県が建てた施設を見に行って初めて良さに気づきました。

古いものは難しいです。人を動かして産業の活性化につなげないと難しいです。コウノトリとかと組み合わせで情報を発信していくことが重要だと思います。うまい情報の発信の仕方を考えていくべきだと思います。広報について、前は情報公開しすぎていてわかりにくかった。市民とのコミュニケーションができるような情報発信をして欲しい。

○阿久津委員

小山市は情報を出すことがまだうまくいっていない、様々なツールがあるので小山の昔からの良さを外に出していきたい、そういうことを考えたいと思います。

○関口委員

人を動かし産業を動かすことは大切だと思います。情報発信について工夫をしていきたいと思います。

○参加者

情報発信がメインで仕事をしていく中で、中々伝わりにくいことがたくさんあります。例えば御殿広場でイベントをやったのですが、今まで小山の歴史に興味がなかったのですが、行って初めて御殿広場の歴史調べるようになりました。そこから小山を知りたくなりました。若い人は体験するということが大切だと思います。例えば古墳に遠足に行く、成人式に紬を着させる、情報より体験、その方が近道だと感じています。

○関口委員

私もサクッとおやまに入って、紬を初めてきました。今まで名前しか知らなかったですがとても着心地が良かったです。実際に体験をして学んでいくことが大切だと思いました。

○阿久津委員

貴重な意見ありがとうございます。経験することで興味がわきます。こどもたちが住みたい、仕事をしたいと思えるように色んなところにいろんなものがあるということを経験させたいと思っています。それでは次のテーマに移ります。

④意見交換：テーマ2「渡良瀬遊水地などの自然やコウノトリなどの生物多様性、農地・平地林の保全と都市環境のバランス」

○海老沼委員

それではここからの進行はわたくし海老沼と、佐藤にて務めさせていただきます。2つ目のテーマ「渡良瀬遊水地などの自然やコウノトリなどの生物多様性、農地・平地林の保全と都市環境のバランス」に移らせていただきます。

私は生井地区出身で、遊水地が身近で皆さんが遊水地はすごいと言うのが分からないのです。あまりにも身近過ぎたからだと思います。周りの皆さんが騒ぐのが不思議でした。佐藤さんどうですか。

○佐藤委員

先日海老沼さんとお話した時に、コウノトリはいて普通、白鳥がいる、ホタルがいる、ということでこっちはすごくびっくりしました。埼玉、東京ではないことです。

小山の人もコウノトリを押しているけど、だから何なんだろうということはあったのですが、海老沼さんとプチデートをさせていただき、生井地区に行った際にとても素晴らしいと思いました。私には娘がいるのですが、コウノトリを知らないことはすごくもったいないと思いました。もうちょっと小山のことを市民全体で気づけたら素敵だなと思います。

○参加者

私も渡良瀬遊水地のボランティアガイドをやっています。運営委員の方おっしゃったように、渡良瀬遊水地は素晴らしいところです。ただ小山市と言っても渡良瀬やその周辺は市民フォーラムで言っている田園環境都市のイメージができるのですが、私が住んでいる犬塚や北側の方は全然イメージが違います。地域差、年齢差、これによってイメージがそれぞれ違い、知識も違う。SDGSのイメージを、進め方の話になるが、ワークショップの形で意見交換をやったほうがいいんじゃないかと思いました。

○佐藤委員

ワークショップとは、みんながいろんなことを話したりする場のことで、サクッと小山でもそういう場があり、それを発信するということを、今のご意見を貴重な参考として今後やっていきたいと思っています。

○参加者

コウノトリのひなが生まれたことで関心を持ちました。観光客が定着するには、風景だけではなく、何か補うものが必要らしいです。私こどもが3人いて、連れて渡良瀬に行ったときには、何をしようとなった時に自販機がなく、トイレもない、土手で遊んで、コウノトリがいるはずだと言って…あそこで長居できるような場所にする、遊具があるとかのもう一押しがあればと思いました。

自然塾というのがあって、とてもいい体験をさせていただいています。毎週やってもいいのかなと思っています。以上です。

○海老沼委員

遊水地には何もありません。何年か前から行政の方地元の方で観光地にしようとしたが、難しかった。コウノトリのヒナが産まれたら毎日何百人と人が来て、今でも土手の上には車があります。素人的にはそこにキッチンカーとか持ってきて、お金落としてもらってとおもうのですが、行政的にどうですか？

○産業観光部長

産業観光部において、渡良瀬遊水地をラムサール推進課にて担当しています。堤防にはトイレ、水道、公園がありますけれども、コウノトリが定着してくれて、大きな可能性を秘めたものになるのかなと思います。ささいなことですが国土交通省と共に小さな観察小屋があるのですが、今度移動して、4月からもう少し大きなものを設置する予定です。

あそこに大きなものを作ることが適切かどうかを含めて検討したいと思います。渡良瀬に来ていただいて小山を知っていただく、そして少し離れたところでお金を落としていただくということも含めてしっかり研究していきたいと考えています。

○海老沼委員

生井地区の方向名かいらっしゃいますか。

○参加者

下生井地区の見守り隊をやっています。近況報告ですが、今日現在コウノトリは見えません。一羽が巣に入りっぱなしで、新しいお嫁さんのレイは4時間くらい巣に戻ってこないんです。若いだけに地区の環境、えさの場所に苦労しているようです。行政にお願いしたいのは、えさ場を考えて欲しいです。食べ物の無いところに行かないです。

多いときは一日数百人、歌が無くなった時には連日お花が届いていた。コウノトリを実際に見ると本当に雄大で、これが鳥なのかと思います。テレビや新聞等で報道されると翌日には3倍も4倍も来るんですね。マスコミ等でとりあげてもらいたいのかと思います。

○海老沼委員

餌がないということで、環境にやさしい農業とか、ふゆみずたんぼとかありますが、コウノトリが来る何年か前からしらすぎが増える時期がありました。減農薬等をやった後に、国の農地水環境保全対策をやっていたら、しらすぎ増えてきて、とうとうコウノトリが

やってきました。そういう環境を維持する地域の後継者がいないことが見受けられます。

生井地区には人がいないとよく聞くのですが、地域の問題を生井地区の方どなたかいかがですか。

○参加者

生井地区から参加しています。遊水地の話になりますが、そこで生まれ育ったので、ありがたみが分かっていなかったのですが、最近遊水地の活動に携わる中で、渡良瀬の素晴らしさが分かってきたので、大事にしていきたいと考えています。

一部の方が熱心にやっていただいているのですが、やはり当たり前のロケーションのため地元の人の関心がないと感じます。コウノトリ、よし焼きに集まる人を見て騒いでるような状況です。違ったところには敏感で、人が集まるようになったことで農道にゴミが増えていたり、写真を撮る方の路駐の車が増えていて、そういうことも考えていただきたいと思います。

○海老沼委員

ありがとうございます。

○参加者

コウノトリにえさがないと話が出ていましたが、自然に優しい農業ということで、子どもが2人いるのですが、給食でふゆみず田んぼ米が年に数回出ていると思います。無農薬のコメを栽培するのは農家にとって負担が大きいと思います。また、飛ぶようには売れないと思うのですが、給食の有機化を求める署名、併せて公園の除草剤を散布するのをやめてくださいという署名をさせていただいたんですが、これの中心になった方がいらっしやらないということだったので私が発言させていただきました。

生物多様性というのが、渡良瀬遊水地だけでなく、コウノトリも生井だけでえさを食べるのではなく、小山はたくさんの田んぼが続いていて、栃木市もずっと田んぼが広がっている、ここがみんなコウノトリのえさにあふれていたらいいと思います。市民みんなが意識をするように、給食の有機化が有効だと思いますし、市民みんな考えていきたいと思っています。

○参加者

渡良瀬遊水地、思川に意見が集中していますが、小山は絹地区、巴波川、田川、鬼怒川、もっと全体を見た方がいいのではないのでしょうか。

○佐藤委員

私も生井地区を知ったばかりで、自分の方の土地も田んぼがありますが、ゴミが多く落ちていて、自治会の方とゴミ拾いしています。小山全体の課題だと思います。

○参加者

生まれ育ちが小山で、豊田の島田で育ちました。ホテルが当たり前で、今は横倉に住んでいて、子育てしています。横倉地区は工業地帯と田園がまさに隣接していてそれが凄い

と思います。そういうところをアピールするといいと思います。生き物調査に参加していて、参加している人は気づくと思うのですが、工業地帯の隣に多くの生き物がいるということに。それが当たり前のところで子供達が育っていくといいなと思っています。

給食の仕事をしているのですが、農家の野菜を使って給食を作っています。そこで子どもに食べてもらって子どもたちの元気な姿から元気をもらえています。そういうところにも目を向けていったらいいなと思います。

○佐藤委員

ありがとうございます。皆様が大事だと思うテーマが違うと思い、バラバラな意見が出て素晴らしいと思います。

○参加者

桑地区の東山田でまちづくり推進団体に入って活動しています。コロナの前に勉強会とかやって本当だと昨年度中に構想図を市に提出するつもりでしたが、まだまだ途中です。

話を伺うと、テーマが渡良瀬遊水地のコウノトリになっているが、実は本当に東山田にも素晴らしい弁天沼というのがあって、こちらに来て 40 年、その頃はガレキの山でした。業者が建築資材を捨てていく、それに気づかない住民も悔しい思いをしました。とても残念ですが、私は東山田の良さを分らなかったです。でもまちづくりが始まって、高齢者の方たちから昔は弁天沼にはホテルが舞い、僕たちは泳いだというんです。私たちは知らないんです。結城紬を昔は日常的に来ていました。生活の中で良さが分かっていたんです。大人が日常のなかでそういうものを取り入れていくということが大切なことだと思います。

○佐藤委員

最後に市長一言お願いします。

○市長

渡良瀬やコウノトリだけじゃないんです。工場の隣で生き物が生きていること、弁天沼は過去に素晴らしいところだったこと、日常の大切なものを見つけ出していくことが大切で、そこから豊かさを作り出していくことが必要だと思います。そういうことを何とかやっていけるような市政にしていきたいと思います。そういう方向性は他のまちではなかったの、うまくいくかわからないですが、小山はそういうことを目指していきたいと思います。

○佐藤委員

ありがとうございます。次のテーマに移ります。

④意見交換：テーマ3「どのような分野を進めることが持続可能なまちづくりや SDGs につながるのか」

○平野委員

それではここからの進行はわたくし平野と、戒にて務めさせていただきます。3つ目の

テーマ「どのような分野を進めることが持続可能なまちづくりや SDGs につながるのか」に移らせていただきます。SDGs というと 17 の項目があり色々な分野が絡み合っていますが、身近なところから皆さんのご意見をいただきたいと思います。

私は PTA 会長として子供たちの環境を整えることで動いているのですが、やりたいことができなかったです。学校も保護者も余裕がない、どうしようとなった時に、自治会長に困ったと相談すると、自治会でやってくれたんです。その内段々、自治会が自らやってくれるようになっていったんですね。何も自分で動くというよりも、皆さんのつながりを頼っていけば、地域として子供達を支えられるんじゃないかなと思っています。

○戒委員

よろしくお願いします。私は子供を 4 人育てています。上が 20 歳で下が小 1 ですが、20 年という中で子育て環境は大きく変わりました。昔は中々相談できなかったが、今は本当に地域の方が見てくれています。老夫婦の方が面倒見てくれています。地域の方が関わってくることが増えました。そういうことで身近な方の関わりを大切にしたいと思っています。よろしくお願いします。

今回のテーマ「どのような分野を進めることが持続可能なまちづくりや SDGs につながるのか」について会場みなさんから意見を伺いたいと思います。

○参加者

農業後継者問題が全国的に問題となっています。今までは農業者から農業者へというものでした。それが方針だったんです。私は通用しないと思っていました。例えばいちご農家が辞める、新しい人が入ると何千万もかかるんです。新規農業者が入らなかったです。

そこで提案ですが、いちご農家が辞めたとなれば、そこに大学生に入ってもらおう。昔農業は技術でしたが、私は、農業は経営だと思います。是非白鳳大学の 3 年生あたりに行政からプロモーションしていただき、起業してもらおう。技術は農家の人に 3 年 4 年で教わる、農家は賃借料として収入が得られる、大学生はそこで費用は掛かっていないです。

今までの農業から農業へではなく、新しい発想が必要です。白鷗大の学生にこれからは小山市に残っていただき、起業してもらい、生活が成り立つようにしていただきたい。よしず産業もそうです。起業が出来るわけですので、行政で作っていただき、白鷗大に見せていただき、よしず産業とか田畑を是非若い世代にバトンタッチできるような企画をしていただきたいと思います。

○平野委員

ありがとうございます。80 歳、90 歳のおじいちゃんおばあちゃんが農家辞めちゃうんだと言って、2、3 年ほったらかしになっています。経営として入って新しいやり方、今までの農業じゃない、活用できるような形にしていきたいと思います。次の方。

○参加者

今回のフォーラムについて、どういうタイムスパンで行くかわからないし、市長と車座かなと思っていて、イメージが違ったんですね。もうちょっとフランクに話せばよかったと思います。

いくつかの意見に賛成で、小中高生、若い方の意見を伺うのが大切だと思います。SDGsは行政というか市民の問題になると思います。長いスパンで考える必要があると思います。個人的な思いはもっとあるのですが、時間がないので以上とします。

○戒委員

ありがとうございます。若い世代の意見は貴重だと思います。子どもが専門学校で都内に通っていて、次男は宇都宮に通っています。若者の意見を聞くと、小山市の魅力は足りないと言われ、移住したくないとこどもに言われています。正直さびしいですが、一度外の目に向かせて小山市は住みやすいところだったというところで移住を戻すというのもあるのかなと思います。若者の意見は貴重だと思うので、フランクに話せる場を設けるのは回を重ねていくのが必要だと思います。

○参加者

駅東通りに住んで3年になりますが、非常に住みやすいまちだと思っております。出身は栃木市ですが、小さいころから小山に通っていました。現在はヨーカドーが閉店し、買い物に困っています。小山は人口も多く、コンパクトシティのまちづくりとしていいと思います。駅周辺を含めたコンパクトシティのまちづくりも、SDGsのまちづくりにつながると思います。

また、課題として後継者がいない、若者がまちを知らない、魅力を知らないから出ていってしまう。私は今栃木高校生クラブという団体を率いています。高校生はまちを知らないです。まちを知ってもらって、楽しんでもらって、知ったうえで発信していくことが大切なのかと思います。それが定住だけでなく関係人口、交流人口の増大につながると思いますし、それが、県南、下都賀、栃木モデルになればと思っています。何か力添えが出来ればと思っています。

○平野委員

ありがとうございます。若い人が地元の魅力を感じてもらえる、情報発信をしてもらえる、興味を持ってもらって体験をしてもらう。そこでいいこともあるという気づきをしてもらえばいいんじゃないかなと思います。

○参加者

おやまっこの未来を守る会に所属しています。学校給食に有機給食を導入するという意見書を団体で出させていただきました。持続可能な食の分野を推進していただくことがSDGsにつながると思いますのでお願いします。食は毎日の基本ですから、学校給食で子供たちが小山に愛着がわくと思いますし、良いものであれば作っている人が尊敬されると思いますし、農業の関心も高まると思います。地産地消、持続可能な有機農業を推進していただきたいと思います。

○平野委員

ありがとうございました。給食は子供たちが口にするものなので大切だと思います。それを親に伝え道の駅などで購入するといった広がりも大切かと思いました。

○坂本秘書広報課長

今手を挙げた方は、全員発言していただきたいと思います。ちょっとお時間過ぎてしましますが、皆様ご協力よろしくお願いします。

○参加者

結城近くに住んでいます。SDGS について大切だと思っています。プロジェクトチームを作って、皆さんに集まっていたき、資料を配って見ていただきました。市長に意見を出させていただきました。

○平野委員

ありがとうございます。この後は人数が多いのでコメントなしで次の方に移らせていただきます。

○参加者

神鳥谷に住んでいます。SDGS の話で、市民活動してきたのですが、おやま百景、94 年に制定したものを、生かしたいという団体さんとコラボをしてきました。いかにそこに到達して皆が見に行けるかという話をすると、おーバスや駐車場の話が出てきて、そういう文教政策が、その他の政策につながっていくということをいろいろな場面で感じました。コウノトリというものが、弱い立場の配慮の象徴だという考えが市民活動されている方にもあると思います。市民活動をしている人たちの思い、市民の人たちの思い、全市民がかかわることが出来る、そういうものだと思うんです。もう一つは企業さんなんかがやっている、やっておしまいという SDGs もあると思います。悪いわけではないのですが、それを検証して欲しいという、その企業を見つめているよという動きがあって初めて双方向性で考えることが出来ると思うんですね。私たちが政策に生かしていくという思いをですね、市民がいかにそこに関わっていくか、情報がつながっていくかということが不可欠だと思います。

○参加者

持続可能なまちづくりを進めるには小山市民がやらないと意味がありません。市民に対して魅力ある政策を提供いただきたいと思います。私も移住組で、小山に魅力があると思っています。小山市は新幹線が止まる駅を持つ、豊かな自然がありバランスがいいです。田園環境都市に、交通インフラの整備が重要だと思います。高齢化進みますが、運転免許の自主返納をされる方が増えると思います。小山の南端のかたが小山駅西口に簡単に行けるようなインフラ整備をしたらいいかと思いました。

○参加者

小山西高校生徒です。質の高い教育をしていただきたいと我々世代からは思います。教育は机に向かうだけでなく、福祉、農業の方と交流する体験することもいいのかなと。小山市では小学生に農業体験だったりしていると思いますが、高校生は進路を決定する時期にあって、そういう時期に、農業体験、福祉体験等をすれば、農業後継者問題等も解決でき

と思います。小山市は高校生の活躍の場が少ないと思います。JRC ボランティアをしまして、小山市で高校生が先頭に立つ場が少ないと思っています。機会を増やしていただきたいと思います。

○参加者

国際交流委員をやっています。小山市を田園環境都市のまちづくりをするために、国際交流が大事だと思います。特に留学が貴重だと思います。留学をメインに友好都市のケアンズ等と国際交流をしていて、最近はコロナでできなかったと思いますが、アウトバウンドだけでなく、インバウンドの国際交流も可能だと思います。先日ナイジェリアハウスを発見しました。日本人と外国人だけではなく、オリンピック選手だったりっていて、彼女たちのためだけでなく小山市のために小山の魅力を再発見していただき、それが小山市民に新たな考えが出来るのではないかと思います。それが豊かさにつながるのではないかと思います。

○参加者

結城市在住です。情報発信と人と人とのつながりが大事だと思います。情報発信、おーラジオとかまだまだ足りないと思います。高校生クラブの放送とか聞いています。総合政策課の担当の方に高校生の活躍の場を作ろうということで、広報 9 月号に出ていましたが、コロナ禍で高校が消極的だという話でした。若い人の視点を引き出せる場をハードル高いと思うのですが。秘書広報課の担当者に言ったのですが、市民の意見をきくような場を開運ラジオとかで出来たらどうかというような話をさせていただきました。情報発信、人と人とのつながりを大事にしていただけたらいいなと思います。自治会の場に行ったとき、若い人年配の人の意見に隔たりがあると感じました。

○参加者

神鳥谷に住んでいて今は萱橋に住んでいます。神鳥谷に住んでいた時は須賀神社に毎年参拝し、毎年女神輿をさせていただいています。勤務先は上三川で働いています。ちょっと働きずらさを感じています。ワークライフバランスのところですか。今住んでいるところの近所にトマト屋さんがあったんですが、後継者がいなくてなくなっていました。とてもトマトがおいしかったのに、後継者がいないのだなということに着眼しました。何か小山市の為に力になれないか、横のつながりだったり、家の周りにはカブトムシがいたり、雉がいたり、イタチだったりそういう自然の大切さを子育て世帯は働き世代で中々小さい子に伝える機会少ないので、時間に少し余裕のある年配の人に伝えていただきたいなと思っています。

○参加者

結城紬の話ですが、私も市のプロモーションで着させていただくことがあり、すてきだなと思いました。これはブランドなのに市民にあまりにも身近ではないと感じて、スカートとかポロシャツ、小物の販売を始めました。本日も紬のスカートをはいています。やれることからやっていきたいと思い、もっとやっていきたいと思っています。行政の人と渡良瀬遊水地に行ってもらって写真を撮ってもらって、環境と資源を使ったものをコラボさ

せていただいて、それを若者の発信力に任せるのも一つの手ではないかなと思っています。私は結城紬をどんどん市民にはやらせていきたいと考えています。協力したいと思っています。

○参加者

色々な企業でも SDGS を目標にしていますが、懸念していることがありまして、世代を超えて生きられるのにやることが目標になってしまっているのが懸念事項だと思います。市長の話を聞きコウノトリはなんでコウノトリなんだろうという疑問があったのですが、渡良瀬の生態系の象徴としてのコウノトリと聞いて納得しました。

東京都と足立区ではこどもの貧困や、ひとり親世帯の子供の学習の選択と平等を核にしているようでして、子どもの学習を例えばコウノトリとブランディングして各課の横串になるような行政改革といいますか、例えば個人情報取り扱いとかだと、福祉と教育委員会等で共有できないというところは、条例の改正で、個人に有利に働くものであれば部をまたぐことをしているそうですので、持続可能というところで、子供を核において、50年100年と続く小山が出来ると考えています。

○参加者

定常型社会に全面的に賛成です。スライドの7にある SDGS を目指すなら、経済成長というところに目を奪われ過ぎてはならない、掘り下げる必要があると思います。

現実的な話として、経済成長と駅前が商業地であるということが関係しているかはわかりませんが、駅周辺は商業地だと思いますが、これからはそういうイメージからの脱却をしてもいいのかもしれないと思います。駅は市民だけではなく、市民以外の方の場所でもあるので、買い物、飲食も必須だと思いますが、同じウェイトで、お金がなくても出来るものがあるといいと思います。具体的には文化の発信地だとか、もっとドラスティックに考えて、困りごとがある人が駆け込める場があるとか、安全に暮らせるまちだということが実感できるような機能があるといいなと思います。

○参加者

若い人の話が多いのですが、最近老人クラブを立ち上げました。小山に住んで40年になりまして、住んでいる所は40人くらいの団地です。今まで近くの農家の人との交流が出来なかったことが失敗したことです。市民病院の近くに新しい団地があります。若い人が集まっています。この方々に公民館活動をしてもらいたいと思います。農家の方とどうつながるのが課題だと思います。公民館で色々な活動を老人会でやっていますが、前からやればよかったと思っています。私のような老人を使って農家の人とどう対応していくか、そこを考えていただきたいと思っています。

○参加者

日曜だけ結城の食材を販売する活動をしています。まちづくりの基本は地域を知ることだと思います。小山市の強みと弱みを分析することが、小山の特徴が出てくることだと思います。市役所の職員の方、市民の皆さん、学校教育で定着するのがいいんだと思います。最後は条例化を目指すのがいいと思います。

環境保全型の農業とか出て来ていますが、全てけん引していくのは学校給食の有機化だと思います。これはまちづくりと直結させるためには、地産地消を徹底的にやって地域で経済を回すことを、市民に意識づけることが大切だと思います。持続可能なまちづくりできると思います。今日のような資料は、事前に郵送して欲しかった。そうすれば議論が深まると思います。

○参加者

同じように学校給食に有機農産物のことを考えています。本日は多様な意見が出てきて感動しました。貴重な体験をいかに生かしていくか、運営委員の方、市民農園の方、農業、教育、文化保全、様々なフィールドがあったと思います。海老沼委員なら農業に関する持続可能なこと、こういうことを広報に載せて発信いただき、いろんな関係者が一度に集まることが出来ると思います。持続して開催して欲しいと思います。

○戒委員

本日はありがとうございます。主観的な話になりますが、お願いをされることが多いと思うのですが、行政と市民が足並みを揃えて、お願いばかりではなく、出来ること、足並みを揃えて歩んでいくことが大切だと思いました。

こういう機会をこれからも持続して続けていくことで、前向きにいいまちづくりをつくっていくことが出来ると思いました。ありがとうございました。

個人的なことですが、今日実は結城紬を着ているのですが、これは工業振興課でレンタル事業をしていて、どなたでも借りることが出来るんです。安価で借りることが出来るので、興味ある方は問い合わせしてみてください。

以上で終わりにさせていただきます。ありがとうございました。

⑤閉会のあいさつ

○坂本秘書広報課長

運営委員の皆様、そして本日参加された皆様、ありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、市長よりご挨拶を申し上げます。

閉会の挨拶

○市長

本日は本当に熱心な意見交換有難うございました。1 時間半を予定しておそらく足りなくなると思い、やはり 2 時間になってしまいました。おそらく今日発言していない方もいて、発言したい方もいたと思いますが、次回のフォーラムについて、今日の結果を参考に、存分に意見を言えるような形で、どういう開催の仕方がいいのか見当 濃い意見交換したい場合対象をしぼることも必要になるかも知れません。そういうことも運営委員と相談しながら次回開催していきたいと思います。

こういう行政と市民がパートナーシップを築いていこうということは、今まで小山市にはなかったと思います。他の自治体もこういう行事は行われていないと思います。フォーラムのようなものをもって、開催をして行政と市民がパートナーシップを築くことで市民

が求めるものが実現できるまちづくりになっていくことになると思います。

市民フォーラム以外でも令和 3 年度は駅周辺のまちづくりプランを進めていくような取組を進むようになることが予定されていまして、数多くの市民の方に関わっていただくようなことを都市整備の方でも考えています。市役所全体で、市民との意見交換によって市政を活性化できていると思っていますので、こういう機会に意見をいただくとか、市長へのメール、手紙等もありますし、個別の問題があれば担当課に問い合わせさせていただいて、市民の声が市役所に届く、また、市役所の情報発信もしっかりやっていきたいと思っています。長時間になりましたが本当にありがとうございました。

⑥閉会

○坂本秘書広報課長

それでは、これもちまして、市民フォーラムを閉会いたします。

なお、お手元に配布させていただきましたアンケート用紙につきまして、ご記入いただいた方は小ホールの外にアンケート用紙回収箱を用意させていただきましたので、そちらに提出いただきますようよろしくお願いいたします。まだアンケートの記入が終わっていない方、アンケート用紙を提出されたい方がいらっしゃいましたら、同じく小ホールの外に記載台等用意させていただきましたので、そちらでご記入のうえ、提出いただきますようお願いいたします。

ここで皆様にお願ひがあります。新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的として、皆様に密を避けていただくため、時間差でお帰りいただきたいと思っています。まず、後ろから 3 列目までの皆様にお帰りいただき、後ろから順番にご案内させていただきます。ご協力よろしくお願いいたします。

それでは後ろから 3 列目までの皆様、お気をつけてお帰り下さい。本日はありがとうございました。

続いて後ろから 6 列目までの皆様、お気を付けてお帰り下さい。本日はありがとうございました。

大変お待たせいたしました、最後まで残っていただいた皆様、お気をつけてお帰り下さい。本日はありがとうございました。